

2021年1月18日(月)

老球の細道587号

### バスケットボールと「SDG's」

会津バスケットボール協会 室井 富仁

毎朝新聞をこまめに隅から隅まで読んでいると思わぬトピックに出会うことがある。コロナや政治家の不正、アメリカの混乱などのニュースも面白いが、よくよく注意しないと見過ごしてしまう「思わぬトピック」を発見することは新聞を読む醍醐味である。

大学の授業でちょうどバドミントンを実施しているところから目に付いたのかもしれない。バドミントンのシャトル(羽根)についての記事である。今まで公式戦のシャトルに本物の鳥の羽根が使われていたのだが、それが最近人工の羽根に変わったという記事である。

なぜ変わったのか？五輪で8大会連続して使われているのが日本のメーカー「ヨネックス」のシャトルである。ヨネックスは中国のガチョウの羽根を原料にしているが、食用に加工する過程で抜けた羽根を使う。それが最近では中国人の食習慣が鳥肉から牛肉嗜好に変化したためにガチョウの羽根が手に入らなくなった。五輪で使われる最高のシャトルを作るには8羽のガチョウが必要になる。そんな状況を鑑みシャトルの安定供給に危機感を覚えた世界バドミントン連盟が各スポーツメーカーに人工シャトルの開発を要求した。

また、シャトルを人工羽根にすることによって、今社会の潮流になっている「SDG's」の地球環境にプラスに貢献することになるという。ガチョウの羽根でシャトルを作るのに洗浄や消毒などで大量の水を消費していたが、人工素材に切り替えることでこれらが大幅に抑えられることになる。今やスポーツ界にも「SDG's」の考え方が求められる時代となり、社会の課題を解決していく姿勢が必要になってきた。世間が注目するスポーツ界が率先して動けば、環境問題への認知度も高まる。コロナ対策などでも発揮されている。

そもそもSDG'sとは何か。「Sustainable Development Goals」の頭文字をくっつけたキーワードで、日本語で言うと「持続可能な開発目標」を意味している。2015年に国連が採択した持続可能な開発のための国際目標を17のカテゴリーで定めたものである。17の目標とは下記の通りである。学生に質問しても認識不足の者が多かった。私もスポーツ界にも影響を与えている内容だとは知らなかった。

①貧困②飢餓③健康と福祉④教育⑤ジェンダー平等⑥安全な水とトイレ⑦クリーンエネルギー⑧経済成長⑨技術革新⑩人、国の平等⑪まちづくり⑫つくる責任、つかう責任⑬気候変動⑭海の資源⑮陸生態系⑯平和と公正⑰グローバルパートナーシップ

2016年から2030年までの15年間で達成することが目標である。私はそこまで生きて、しっかり成り行きを見届けたいものである。特に地球温暖化における気候変動だ。

ところで、コロナ禍によって再びわがバスケットボールの日々の活動や大会の中止などが相次いでいる。今後持続可能なバスケットボール活動ができるのだろうか。コロナが落ちつき活動が可能になっても、経済の落ち込みや情熱の冷え込みによって、部員、指導者、登録チーム、練習する場所の減少が心配である。私の喫緊の持続可能な開発目標である。